

LARGE DAMS

大ダム

巻頭言 頻発する自然災害

ICOLDをめぐる動き（第16報）

2011年東北地方太平洋沖地震によるダムへの影響

技術委員会—ダムコンクリート凍害実験研究分科会報告

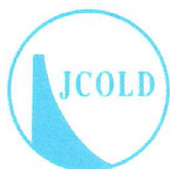
国際大ダム会議（ICOLD）第79回年次例会参加報告

ICOLD第79回年次例会シンポジウム発表論文（その2）

随 想 東日本大震災を契機に考えること

No.217

2011-10



社 団 法 人 日 本 大 ダ ム 会 議
JAPAN COMMISSION ON LARGE DAMS

大ダム

第 217 号

2011-10



国際大ダム会議2012年
京都大会の登録受付を
12月1日から開始いた
します。

京都大会HP アドレス

<http://icold2012kyoto.org/j/>

京都大会の準備を進めております。

皆様のご支援・ご協力を
よろしくお願い申し上げます。

目 次

<巻頭言> 頻発する自然災害……………関 克己

ICOLDをめぐる動き (第16報)……………松本 徳久… 1

2011年東北地方太平洋沖地震によるダムへの影響
……………松本徳久・佐々木隆・大町達夫… 3

<分科会報告>

ダムコンクリートの凍害に関する長期暴露試験 現地踏査
……………ダムコンクリート凍害実験研究分科会… 8

国際大ダム会議 (ICOLD) 第79回年次例会参加報告

技術委員会報告

ダム解析設計における計算問題委員会……………	松田 周吾…	11
ダム設計における地震委員会……………	松本 徳久…	12
ダム水理委員会……………	日野 徹…	12
コンクリートダム委員会……………	上阪 恒雄…	14
ダム監視委員会……………	松村 瑞哉…	16
環境委員会……………	木下 誠也…	16
ダム安全委員会……………	木戸研太郎…	17
ダムを取り巻く公共の安全委員会……………	濱口 達男…	18
貯水池堆砂委員会……………	熊崎幾太郎…	19
ダム廃止委員会……………	川崎 秀明…	20
ダム運転・維持及び補修委員会……………	三鼓 晃…	21
広報・教育委員会……………	坂本 忠彦…	22
ダム台帳・文書委員会……………	藤原 信吉…	23
水力エネルギーダム委員会……………	瀧本 純也…	25
小ダム特別委員会……………	松浦 良和…	26
ダムと洪水委員会……………	柏柳 正之…	27
ダムと分水委員会……………	勝濱 良博…	28
河川流域の開発と管理におけるダムの役割委員会 ……………	角 哲也…	29
コスト縮減特別委員会……………	楠見 正之…	30
地下ダム委員会……………	石田 聡…	31
地球気候変動とダム委員会……………	杉浦 友宣…	31

第79回ICOLD総会報告……………松本 徳久… 33

国際シンポジウム参加報告……………吉田 等… 34

ダム監視委員会

F) Committee on Dam Surveillance

委員代理 松 村 瑞 哉^{*1}

1. 出席者

Committee on Dam Surveillance (ダム監視委員会) は、2011年5月31日(火) 8時から13時までKKL ミーティングルームで開催された。アルゼンチンの委員長のほかオーストリア、ブルガリア、カナダ、中国、チェコ、エジプト、フランス、フィンランド、マケドニア、ドイツ、インド、イラン、イタリア、日本、モロッコ、ノルウェー、ポルトガル、ルーマニア、南アフリカ、スペイン、スウェーデン、スイス、アメリカの計25カ国が出席した。

環境委員会

G) Committee on the Environment

委員 木 下 誠 也^{*2}

1. 出席者

環境委員会は、5月31日(火)、コンチネンタルパークホテル内会議室にて開催された。日本からは委員として木下誠也(愛媛大学)のほか白井明夫(財団水源地環境整備センター)が出席した。このほか、柏原聡(国際協力委員: いであ株)、原田譲二(矢作建設工業株)、吉田等(財団技術センター)、川崎秀明(山口大学)、山本浩樹(八千代エンジニアリング株)の5氏がオブザーバーとして出席した。

環境委員会には、委員14名(代理2名を含む)(13カ国)、オブザーバー11名(委員参加の4カ国のほか2カ国)の合計25名(15カ国)が参加した。



環境委員会

2. 議事・課題・特記事項等

ダム監視委員会は2009年度から実施しており、今回の会議で最終報告書の取りまとめを行うこととしている。事前に日本、スイス、スペイン、アメリカからの修正意見が集約されており、それぞれの意見に対し、最終報告書へ反映するべきか否かを審議を行った。

審議は、4つのワーキンググループに分けて実施され、日本は1章から4章までをスイス、ブラジル、オーストリア、マケドニアとともにに行った。

審議事項は、図番号や頁番号の修正など軽微な事項から、「水温は有益な情報と成り得るか」や「ビデオによるダム監視は有益であるか」などであったが、特段の大きな修正事項はなく、上記審議終了後に確定した最終報告書は、6月3日に実施された Executive meeting (総会) にて承認された。



左からシャバール副委員長・木下委員・白井委員

2. 議 事

(1) 挨拶等

馬場恭平委員長欠席のためジャンピエール・シャバール副委員長(フランス)が議長を務め開催の挨拶を行った。日本から、東日本大震災に対する世界各国の支援に対するお礼を述べるとともに、馬場委員長からの伝言を含めこれまでの経緯等を説明した。

(2) 各検討課題に対する議事

① TOR-1 (各国の主な環境課題に関する一覧表)

ケン・ロバーツ委員(ニュージーランド)が中心となっておりまとめた環境課題に関する一覧表について、各委員に配信することにより情報を共有することとした。

② TOR-2 (環境影響評価に関する現状の事例収集)

他の技術委員会でも同様の議題が扱われている。当該課題の検討は休止することとなった。

③ TOR-3 (ポジション・ペーパーの改訂・更新に係る)

^{*1} 北海道電力株 土木部電源開発 グループリーダー

^{*2} 愛媛大学 防災情報研究センター 東南海・南海地震研究部門長、教授

追加・補足資料)

ICOLD ポジション・ペーパー「ダムと環境」の補遺として日本チームが作成した、今後の気候変動の現状・予測及び様々な環境問題（人口増加、食糧問題、エネルギー問題、水資源問題等）の現状・予測を踏まえた、ダム・貯水池の果たす役割についてのペーパーについて、木下が説明を行った。Introduction の項で、文書作成の目的を説明することとなった。また、第1章は、ICOLD の「地球気候変動とダム委員会」の結論と矛盾しないものである必要があるとされた。第2章については、さらなる作業が必要とされた。

また、ポジション・ペーパー自体の改訂の必要性が議論された。

④ TOR-4（環境影響評価のためのガイドライン）

他機関（WB など）でガイドラインが定められているため、当委員会としてはガイドラインをまとめる必要はないものとされ、当該課題の検討は休止することとなった。

⑤ TOR-5（完成した報告書の今後の取扱等について）

報告書「ヘリテイジ（特に歴史的、生態学的、景観的、文化的特徴のある地域）」については、事例が古くなっているため、各委員が事例の更新、見直しを行うこととなり、日本が原稿案を各委員に配信し、意見をとりまとめることとなった。来年の2012京都年次例会・大会において、上記ペーパーの最終承認を得ることでスケジュールを確認した。

3. 委員会における説明資料

（資料1）2011 Tentative Agenda

（資料2）2011 Task Forces

（資料3）2011 Current Situation by Mr. Baba

（資料4）TOR-1 Environmental issues

（資料5）TOR-3 Supplementary Paper (Draft)

（資料6）TOR-3 Supplementary Paper Introduction by Mr. Baba

ダム安全委員会

H) Committee of Dam Safety

委員代理 木戸 研太郎*1

（委員 小坪 洋 巳*2）

1. 出席者

本委員会は、33カ国・34名の委員で構成される、技術委員会の中でも有数の大所帯の委員会である。当日の出席者は、委員23名及び代理出席3名、加えてオブザーバーが6カ国から計7名（合計33名）参加しており、会議室は満員の盛況であった。委員長はカナダの Zielinski 氏、副委員長はオランダの Janssen 氏とアメリカの Tjoumas 氏の2名である。

2. 委員会の概要

本委員会は、昨年より延長された期間（2010～2012）の半分を過ぎ、今期の検討課題（Terms of Reference）をおおむね終了したところである。

昨年までに、新しい「ダムの安全管理に関する Bulletin」作成（Bulletin 59の改訂）作業を行っており、その原稿は今年1月に ICOLD 本部に提出済みである（本年次例会で審議される）。

残る検討課題は、「ダムのリスク管理に関する情報及び教育資料の準備」であり、来年までに完了の予定とされている。

3. 議 事

今年の委員会では、以下の2つの課題について討議がなされた。

(1) ダム安全に対する法律及び規定のレビュー

この課題については、委員会内にワーキンググループ（WG）を組織して検討を進めている。WG は本委員会メンバー国及び他に3つの ICOLD 加盟国に質問状を送付しており、これまでに32カ国からの回答があった。WG ではさらに、本委員会メンバー以外の20の ICOLD 加盟国に対して質問を送付予定である。

今回の委員会では、WG リーダー（チェコの Polacek 氏）から、現在までに得られた回答の分析結果の報告がなされるとともに、回答の分析方法や情報の質のチェック方法、レポート原稿作成等について議論がなされた。レポートの最終原稿は、来年の京都年次例会の前に委員に配布される予定とのことである。

Polacek リーダーはまた、京都年次例会以降も WG の活動を継続し、ダム安全に対する法律及び規定に関する一般的提言（general recommendation）を作成してはどうかという提案を行った。

(2) 2012年以降の検討課題（次期委員会の TOR）

今回の委員会に先立ち、Zielinski 委員長から、メールで各委員に対して次期ダム安全委員会の TOR の提案がされており、数名の委員の間でメール討議が展開（情報は全委員に配信）されていた。委員会ではそれを受けて討議が行われ、以下の各項目が候補として挙げられた。

*1 御水資源機構 総合技術センター ダムグループ長

*2 御水資源機構 一庫ダム管理所 所長